

ビーチボールバレーとは？

ビーチボールバレーは、生涯スポーツとして誕生した、レクリエーションスポーツです。子供から高齢者まで色々な方々が、色々な場面で楽しんでいます。

特色は、競技者4人全員が必ず1回ボールに触れて、4回目に返さなければならぬ。
4回目の競技者は相手にボールを返すときに、ジャンプをしないで返さなければならない。

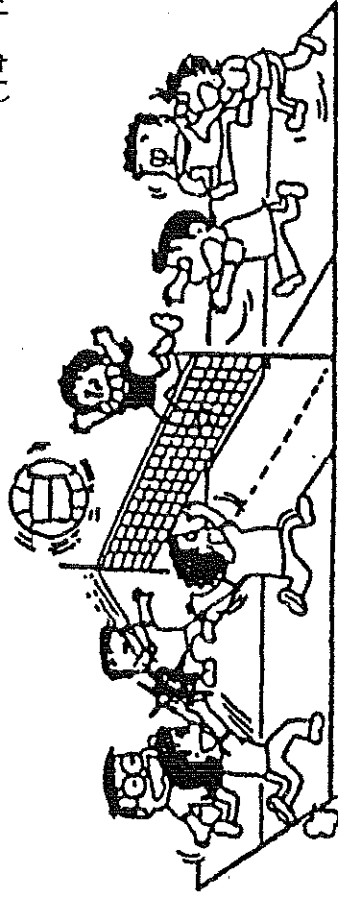
この2点が、ビーチボールバレーの特色であり、スポーツとして奥深さがあります。

ルールは、茨城県ビーチボールバレー協会の発行するルールブックに基づいています。

ビーチボールは直径25cmのビニル製ボールを用います。(県ビーチボールバレー協会公認球 ¥360/ヶ)

ネット高さは、子供・女子190cmで、混合・男子は210cmです。(バドミントンは155cm)

競技方法は、2つのチーム(1チーム4人)がバドミントンコート(ダブルス)で、ネット越しにビーチボールを打ち合って得点(1セット15点)します。
(14-14でジュースとなり2点差がつくまで17点先取でセット終了になります)

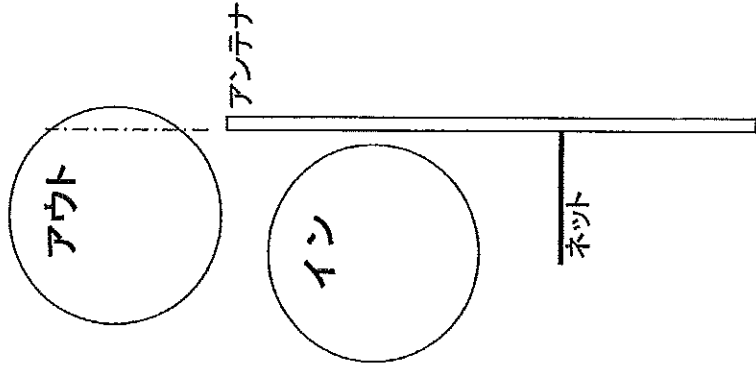
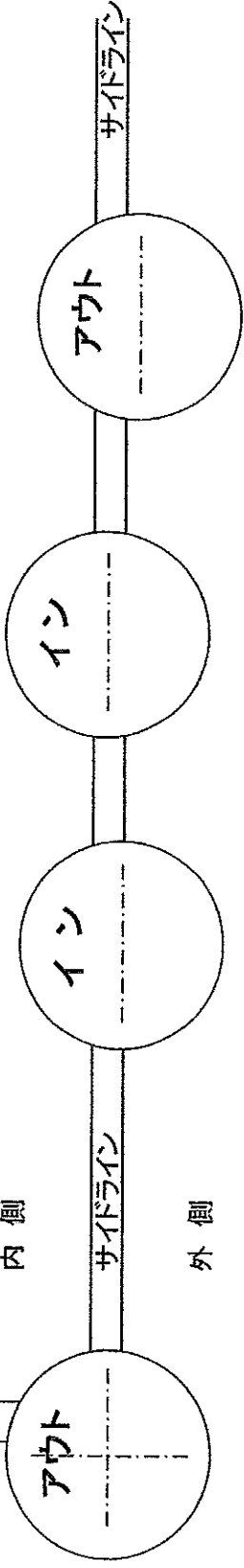


エンドライン

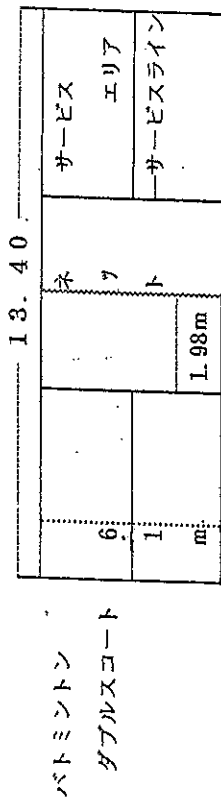
ボールのイン・アウトをおぼえましょう！

ラインズマンから見て
アウト

コート
内側



1 コート、6、10×13、4×mの区画線で囲まれたコートを使用する。



2 ネット

ネットはバトミントンネットを用い高さは、一般男子、男女混合が2、10m
女子が1、90mとする。

3 ボール

25cmのビーチボールとする。(茨城県ビーチボールバレー協会公認球)

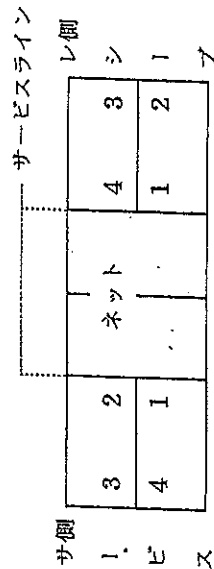
4 競技者

1チーム4名とする。(登録は監督を含めて7名)

5 競技規則

(1) 試合開始前にサービス・コートをジャンケンで選択する。

(2) 試合開始時のポジション



(3) 試合は1セット15点で3セットマッチとし、2セット先取りしたチームを勝ちとする。

(4) 得点はサービス側以外でも得られる。(ラリーポイント制)

(5) サービスは1人1本とし、腰から下で打つ。(アンダーハンドサービス)

(6) サービスはサービスエリア内で行う。

(7) サービスは前記サービス側の1のポジションにきた者が行う。

(8) ポジションはサービス権を取った時、時計回りでローテーションする。

(9) 2セットにはいる場合は、(2)の正規のポジションで1セットの最初にサービスを行った反対のチームの1番から行う。

(10) 3セットに入る場合はサービス・コートをジャンケンで選択する。

(11) サービスレシーブは(2)の正規のポジションで行う。

(12) タイムは1セット1回とし、時計は30秒とする。

(13) 選手交替はボールデットの時、監督が審判に告げて行う。1セット内3回
但し、競技者の交代によってコート外に出た競技者は、そのセットが終了しなければ、再びコートに入ることには出来ない。

(14) ボールを返す場合、だれもが1回ボールに触れ、4回で返す。

(15) ボールは肘から指先の間で打つ。

(16) レシーブは肩から下で両手または片手で受ける。相手コートから4回目に
(アタックボール)返されたボールを最初に受ける競技者は(1回目)は
身体の中の部分でもよい。但しそれ以外の競技者については適用しない。

(17) 15点または14対14以後、2点相手チームに勝ち越したチームがその
セットの勝者とする。但し点数は17点までとする。

(18) ポジションが誤っていた場合は、ゲームを中断しその誤りを正す。得点は有効とする。

6 次の場合は反則となり相手に得点が与えられる。

(1) ネット上から手が出た場合(オーバーネット)但し4人目が対象となる。

(2) 2回続けて同じ人がボールに触れた場合。(ドリブル)

(3) ボールをつかんだり、停止させた場合。(ホールディング)

(4) サービスを打つとき、ラインを踏んだり超えた場合。(フットフォルト)

(5) 4回で返すとき、ジャンプして攻撃した場合。(ジャンプボール)

(6) 相手競技者に触れたり、相手チームのプレーを妨害した場合。
(インターフェア)

(7) ボールを4回で相手コートに返せなかった場合。(ヒットフォルト)

(8) サービスがネットに触れた場合。(フォルト)

(9) 手または体の一部がネットに触れた場合。(ネットタッチ)

(10) ボールがネットの上を超えない場合。(ネット外通過)